

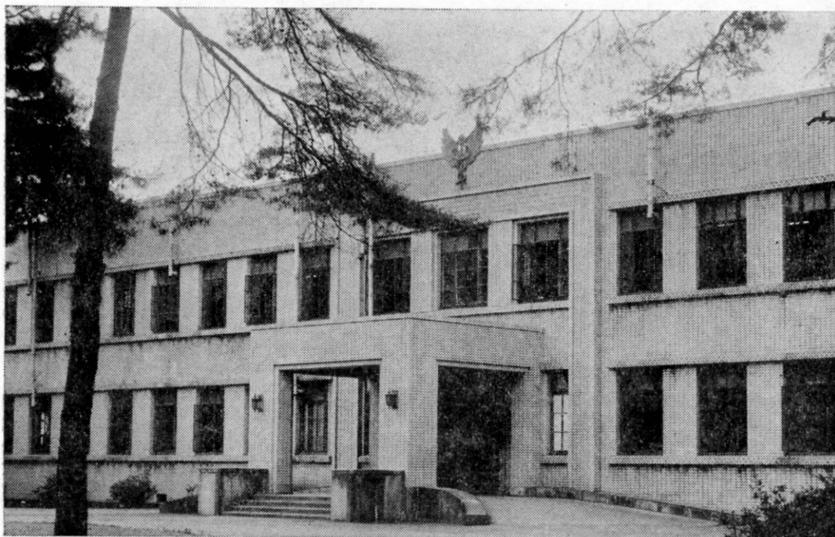
## 松本昭教授主要著作目録

### 主要著書、論文

- 太平天国百週年の学界展望 中国研究 14 1951年6月  
 スターリン言語学説の中国における反響 文学 19-9 1951年9月  
 北京政府の少数民族政策(岩村三千夫と共著) 中国資料月報 48 1952年1月  
 新中国における少数民族の解放 部落 31 1952年3月  
 中国言語学界の動向 季刊理論別冊 2 1952年12月  
 抗日統一戦線結成過程の魯迅 現代中国 23 1953年10月  
 国防文学論戦資料 魯迅研究 7 1954年1月  
 「国防文学論戦」学習ノート 魯迅研究 9 1954年9月  
 現代中国語に存在する replacive morpheme の一例 中国語学 43 1955年10月  
 紹介“新華字典” 中国語 6 1955年11・12月  
 「意味」研究の方法と必要——あわせて「涼」その他の単語の意味考察に必要な資料  
 について—— 中国語学 69 1957年12月  
 北京語アクセントに関する一考察 中国語学 100 1960年7月  
 再び北京語アクセントについて——「軽声」の解釈、複合アクセントなどに関して——  
 中国語学 110 1961年5・6月  
 現代国語の構造 文字 国文学 8-2 1963年1月  
 電子計算機に文を作らせる(梶山陸子と共著) 言語生活 137 1963年2月  
 現代雑誌九十種の用語用字(第二分冊、漢字表)(斎賀秀夫と共同) 国立国語研究所  
 報告 22 1963年3月  
 漢字の機械処理について 漢文教室 74 1965年11月  
 中国の文字改革その後 言語生活 173 1966年2月  
 「同音語」——日本の漢語(字音語)と中国語の場合—— 言語生活 179 1966年8月  
 国研用漢字テレタイプと同機利用の言語情報処理 国立国語研究所報告 31 1968年  
 3月  
 中国語形態素の形及び意味に関する考察 東京教育大学文学部紀要国文学漢文学論叢  
 13 1968年3月  
 学生運動とことば 言語生活 214 1969年7月  
 わたしの読んだ本 白川静「漢字」 言語生活 228 1970年9月  
 待遇表現の実態——松江 24 時間調査資料から——(南不二男と共著) 国立国語研究

所報告 41 1971年3月

- 基礎講座 中国語はどんな言語か (1) (2) (3) 中国語 138~140 1971年7~9月  
 中国語の重音について 東京教育大学文学部紀要国文学漢文学論叢 17 1972年3月  
 新らしい中国文字の本(新堂明保と共著) 出版総合企画 1972年6月  
 「中国の漢字整理」から 言語生活 280 1976年1月  
 日中漢字の機能について 中国語 216 1978年1月  
 文字とことば 東書「国語」172 1978年3月  
 中国語学 明と暗(常識と非常識)——中国語学序説にかえて—— 中国語 219~230,  
 232~238. 240 1978年4月~1979年3月, 5月~11月 1980年1月  
 広大アジア研究によせて アジア研究創刊号 1979年4月  
 世界の中の日本文字(橋本万太郎らと共同) 弘文堂 1980年3月  
 中国語の擬音語, 擬態語 日本語学 6-7 1986年7月  
 漢字, “拼音” “音标” 中国語 340~342 1988年4~6月  
 漢字源(藤堂明保, 竹田晃と共編) 学習研究社 1988年11月



## 編集後記

『一橋論叢』の新たな形を求めての模索が始まったのはかなり以前に遡るのだが、1988年11月号よりその模索が少しずつ具体化しつつある。当分の間は試行期でもあり、これが最終的な結実であるというわけでは勿論ない。編集関係者が、読者諸賢のご意見、ご叱正を期待する所以である。

本号は、小平関係の教官の寄稿を中心とした構成になっている。そこには、1988年3月一橋大学を去られたドイツ語科の加藤二郎、中国語科の松本昭の両氏に関する記事のみならず、両語科に属する教官のある程度まとまった寄稿が見られるはずだが、それはお見送りしたわれわれの心にお二人の良き思い出がいつまでも残るように、さらになお一層のご活躍をなさるように、との願いを表すものにほかならない。お二方のご健康も同じく心からお祈りしたい。

(佐野記)